

平成27年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

| | | | |
|---------------|--|----------------|-----------|
| 事業所番号 | 1493500142 | 事業の開始年月日 | 平成22年8月1日 |
| | | 指定年月日 | 平成22年8月1日 |
| 法人名 | (有)松田メディカルサービス | | |
| 事業所名 | グループホーム 陽春の里 | | |
| 所在地 | (247-0015) 横浜市栄区中野町56-4 | | |
| サービス種別 定員等 | <input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護 | 登録定員 | 名 |
| | <input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護 | 通い定員 | 名 |
| | | 宿泊定員 | 名 |
| | | 定員計 | 18 名 |
| | | ユニット数 | 2 ユニット |
| 自己評価作成日 | 平成27年12月25日 | 評価結果 市町村受理日 | 平成28年5月2日 |

基本情報リンク先 <http://www.wam.go.jp/wamappl/hyoka/003hyoka/hyokanri.nsf/pSearch3?Open>

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者が求める生活に基づいたケアを提供し、これに必要な環境づくりを目指しています。

地域に根差したホームであるよう町内会が実施する行事に参加しています。

入居者が社会参加できるよう社会資源の把握につとめています。

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | | | |
|-------|-------------------------------------|---------------|-----------|
| 評価機関名 | 株式会社フィールズ | | |
| 所在地 | 251-0024 神奈川県藤沢市鶴沼橋1-2-7 湘南リハウスビル4階 | | |
| 訪問調査日 | 平成28年1月13日 | 評価機関 評価決定日 | 平成28年4月2日 |

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

事業所は、JR東海道線、横須賀線「大船」駅よりバスで13分、バス停「本郷」下車、徒歩1分の所にあります。幹線道路から1本入った住宅街の中にあり、裏手には公園が広がっています。小学校やスーパーマーケット、ファミリーレストランが近くにあります。

<優れている点>

事業所は開所して6年目ですが、町内会の班長をするなどして急速に地域に根付いてきています。町内会の災害時要援護者システムに加入し、地域との協力体制を築いています。管理者は防災防火の専門家として、区の「まちの先生」に人材登録し、地域の中で活動をしています。町内会の回覧板には、事業所からの情報も発信しています。事業所には看護師が職員として勤務しており、利用者の健康管理の面からも安心できます。職員は、意見や提案を自由に発言出来る環境になっています。入浴時間の変更や食材の買い出しなど、各フロアごとに出された意見は検討し実行しています。法人の代表は職員と食事会をするなど、個別に話す機会を設け、現場の職員意見を吸い上げています。

<工夫点>

個人情報に関しては、利用者名を番号や記号に変えるなどの工夫をして、会議などでも利用者の個人名は出さず、入浴後の塗り薬表にも利用者の個人名は記載しないなど徹底しています。入浴や排せつは同性介助を基本としています。入浴のお湯や浴室マットは利用者ごとに取り換え、衛生面に配慮しています。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

| 評価項目の領域 | 自己評価項目 | 外部評価項目 |
|------------------------------|---------|---------|
| I 理念に基づく運営 | 1 ~ 14 | 1 ~ 7 |
| II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | 15 ~ 22 | 8 |
| III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | 23 ~ 35 | 9 ~ 13 |
| IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | 36 ~ 55 | 14 ~ 20 |
| V アウトカム項目 | 56 ~ 68 | |

| | |
|-------|--------------|
| 事業所名 | グループホーム 陽春の里 |
| ユニット名 | こもれび |

| V アウトカム項目 | | | |
|-----------|---|---|---|
| 56 | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25) | ○ | 1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない |
| 57 | 利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38) | ○ | 1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない |
| 58 | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38) | ○ | 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 59 | 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37) | ○ | 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 60 | 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49) | ○ | 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 61 | 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31) | ○ | 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 62 | 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28) | ○ | 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない |

| | | | |
|----|--|---|--|
| 63 | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19) | ○ | 1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない |
| 64 | 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19) | ○ | 1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない |
| 65 | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4) | ○ | 1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない |
| 66 | 職員は、生き生きと働いている。 (参考項目：11, 12) | ○ | 1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 67 | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。 | ○ | 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 68 | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。 | ○ | 1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない |

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|-------------------|------|---|--|--|--|
| | | | 実施状況 | 実施状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | 1 | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。 | 入居者さまやご家族の声を聴き、その望むところを出来るだけ実現するよう努力したり、地域の行事に参加するなど、理念の実践につとめている。 | 理念は事務所に掲示し、管理者は職員に日頃から話をして共有しています。利用者が求める生活とは何かを考えながら、環境を整えて支援をしています。また、地域に向けて防災の情報や提案などを発信し、理念の実践に繋げています。 | |
| 2 | 2 | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。 | 町内会の班長役として1年過ごし、回覧板にホームからのお願いを掲載してもらい古タオルの提供を受けている。 | 管理者は、平成27年度に町内会班長を務め、地域との繋がりを更に深めています。また、区の防災防火の「まちの先生」に登録し、防災面の講演活動も行っています。地域のボランティアや実習生なども受け入れています。 | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。 | 運営推進会議等を通じて、地域の方からの質問や意見に対応している。 | / | / |
| 4 | 3 | ○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。 | 地域の力を理解しながら、応援をいただくことが多く、それがサービス向上に役立っている。 | 年6回、利用者や町内会役員、地域ケアプラザ職員、区高齢支援課職員、民生委員などが出席して開催しています。活動報告や事故報告の後、意見交換や地域の情報交換などを行っています。会議での意見は事業所のサービスの向上のために活かしています。 | 運営推進会議の議事録を始め、各種の「記録」はそれぞれ分かり易くファイリングし、整備されておくことも期待されます。 |
| 5 | 4 | ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。 | 利用者さんのことでホームで解決ができない場合、実情を報告してアドバイスをもらっている。 | 区の高齢支援課とは密に連携を取り、事業所の実情を伝え困難事例などを相談したり、アドバイスをもらうなどして協力関係を築いています。保護課とも連携を取っています。保護課職員が来所した時には、近況を報告しサービスの取組みを伝えています。 | |

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------|------|--|---|---|-------------------|
| | | | 実施状況 | 実施状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 6 | 5 | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。 | 身体拘束についてこの基準を再度確認して、介護にあっている。 入居者さんの中には、あたりかまわず扉を置いて出てしまう方がいるため、施錠管理に注意を払っている。 | 事業所は身体拘束の弊害を理解し、身体拘束のない支援を実践しています。 利用者の家族から、ベッドに転落防止柵をつけるように要望があっても、身体拘束の面から説明を行い、マットを使用するなど色々と工夫をして、柵をつけない支援をしています。 | |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ざれることがないよう注意を払い、防止に努めている。 | スタッフは日常の介護の中から、虐待につながるものがないかどうかをお互いにチェックし合っている。 | | |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。 | 当ホームにおいては3名の方が成年後見人についてもらっており、日常生活において、その制度を学んでいる。 | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。 | 契約時の説明については、その都度必要な書類を提示し、確認してもらいながら2時間弱をかけて実施し、署名・捺印をいただいている。 | | |
| 10 | 6 | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。 | ご家族の要望等を頂くために、目安箱を設置している。また、イベントを通じてご家族の意見や質問等に応じている。 | 家族が面会やイベント時に来所した時には積極的に職員から声掛けをし、家族からの意見などを聞くように心掛けています。意見を言いやすい雰囲気作りにも気をつけています。玄関には意見箱を設置し、横には紙とペンも用意しています。 | |

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|-----------------------------|------|---|--|---|-------------------|
| | | | 実施状況 | 実施状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 11 | 7 | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。 | 毎月のミーティングや朝の申し送り時に、建設的な意見を出してもらって運営に反映させている。 | ミーティングや全体会議では職員から様々な意見や提案が出ています。入浴時間帯の見直しによりレクリエーションの時間を確保したり、食材の購入方法を変更するなど、職員意見を反映した運営をしています。代表者は職員と個別に話をする機会を設けています。 | |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。 | 代表者は職員個々との話し合いの機会を設け、それぞれのスタッフの気持ちや要望などの把握に努めている。 | | |
| 13 | | ○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。 | 新規の職員に対して初任者研修を受けてもらうなど、スタッフの質の向上に努めている。また、様々な研修に参加させたり、役員として派遣させるなど力量の向上を図っている。 | | |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。 | 横浜市や神奈川県スタッフ研修会に役員としてスタッフを派遣しているほか、グループホーム間での交換研修や、実践者研修の受け入れを通じて同業者との交流の機会を図っている。 | | |
| II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。 | 入居に当たりインテークの段階から本人の要望ややりたい事など、可能な限り丹念にお話をさせて頂いている。 | | |

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------|------|---|---|---|-------------------|
| | | | 実施状況 | 実施状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。 | 家族がいらっしゃる場合は、必ずと言ってよいほど、精神的なサポートが必要あると感じている。ご家族の意見やしてあげたい事を把握するとともに、無理のない範囲で協力をして頂く事に努めている。 | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。 | 初期段階では、まずホームに慣れて頂く事が大事であり、ホームでのサービスが心身ともに納得頂けるよう心がけている。慣れてきた段階で、「たすけあい栄」などのようなサービスを取り入れている。 | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。 | 食事の配膳を手伝って貰ったり、軽い作業などをスタッフと一緒にしている。 | | |
| 19 | | ○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。 | 時間の許すご家族においては毎週のように来所して頂き、入居者さまの心のケアに参加して頂いている。 | | |
| 20 | 8 | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。 | 町内会の旅行や敬老会などのイベントに参加して頂いている。 | 地域のサークル活動を継続している利用者もいます。以前住んでいた地域の町内会の旅行に、友人と参加する利用者もいます。年賀状を出す手伝いをしたり、利用者が大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないように支援に努めています。 | |

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|-----------------------------------|------|---|---|---|-------------------|
| | | | 実施状況 | 実施状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。 | 入居者さんどうし、お互いに支えあったり、声を掛け合ったりして暮らしていただいています。 | | |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。 | 積極的に実施できていない。 | | |
| Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 23 | 9 | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。 | 外出したい人はそのように、買い物をした人とは一緒に出掛けるよう工夫している。 | 職員は入浴時など、利用者と一対一でゆったりとした時に色々と話合い、利用者の思いや意向を確認しています。困難な場合でも二者択一で答えてもらうなどの工夫をしています。利用者本位に検討し、家族に聞いたり、表情や仕草などから汲み取っています。 | |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。 | ひとりひとりがどんな仕事や暮らしをしてきたか、ご家族に聞き入って把握している。 | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。 | 休みたい人や、外に出たい人、体操などをしたい人、それぞれの一日をどのように過ごすか、スタッフと情報を共有して一日一日対応している。 | | |

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 自己評価 | | 外部評価 | |
|------|------|---|--|---|-------------------|--|
| | | | 実施状況 | 実施状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 | |
| 26 | 10 | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。 | ご家族の意思やご本人の希望など、時々に応じたカンファレンスを行って、ケアプランに反映させている。 | アセスメントをし、本人や家族、医師や看護師、職員など必要な関係者と話し合い、ケアマネジャーが現状に即したケアプランを年に1回作成しています。3ヶ月に1回モニタリングをしています。急変の場合はその都度見直しています。 | | |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。 | スタッフ会議において、入居者さまの変化に気づいたスタッフから意見をとりいれたり、ご家族の要望などを総合的に話し合い、ケアプランにとりいれている。 | | | |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。 | ご家族の支援・町内会の支援、ボランティアの支援などを受けながら、サービスを充実させるよう努力している。 | | | |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。 | 町内会の方々・入居者さまのご友人などの協力を得て生活を楽しむよう支援して頂いている。 | | | |
| 30 | 11 | ○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。 | 月2回の往診をして頂いている。必要に応じて医師とご家族の話を持っていただいている。 | 本人や家族が希望する医療機関の受診も可能であり、適切な医療を受診出来る様に情報提供を行っています。また、必要に応じて同行支援も行っています。訪問診療が月2回、訪問歯科が2週に1回あります。医療連携体制の下、安心した生活が送れています。 | | |

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------|------|---|--|---|--|
| | | | 実施状況 | 実施状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 31 | | ○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。 | 健康面の変化について看護師に報告し、往診や通院の手続きなど適切に行っている。 | | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 病院が開く会議に参加したり、地域での異業種交流会などに出席している。また、入退院では、情報交換を出来るだけ密に行い、その後の生活に支障のないように連絡を取り合っている。 | | |
| 33 | 12 | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。 | ご家族とは入居の段階から看取りについて確認をしている。また終末期においては病院とホームとのケアの違いを十分に説明し、ご家族の判断に対応している。 | 重度化や終末期の対応については、「急性期における医師や医療機関との連携体制」、「看取りの指針」を、入居時に本人・家族等に説明し、了解を得ています。これまでも数件の看取りを行っており、職員は終末期ケアについての方針を共有しています。 | |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。 | 今年は4～5回ほど救急搬送を行ったが、救急車の手配から病院への情報提供を確実にし大きな混乱はみられなかった。 | | |
| 35 | 13 | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 | 年2回の避難訓練を実施するほか、町内会の災害訓練に参加して、顔の見える関係に努力している。 | 避難訓練は夜間想定を含め年2回実施し、地域の防災訓練にも参加しています。町内会の災害時要援護者支援システムに加入し、要援護者の安否確認訓練に参加し地域との協力体制を築いています。非常災害用の食料品、備品などを備蓄しています。 | 事業所の避難訓練実施記録や地域の防災訓練参加記録などの「記録」を、分かり易く整備しておかれることが期待されます。 |

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|---------------------------------|------|---|---|--|-------------------|
| | | | 実施状況 | 実施状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 36 | 14 | ○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。 | 「年寄り笑うな行く道じゃもの」を念頭に入れ、人生の先輩に対する尊敬の念を持って対応するよう言葉かけに注意している。 | 管理者は、日頃から職員に対し、「利用者を人生の先輩として敬い接するように」また、「人をきずつけないように、ケア対応は人により違うからその人に合った対応に留意するよう」と指導しています。排泄や入浴は同性支援を基本としています。 | |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。 | ADLが低く、意志の伝達が難しい入居者さんにおいても、居室で休むか、リビングで過ごすか等、声かけによってご本人に決めて頂いている。 | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。 | その日その日の入居者さんの要望を聞いて、全体的にコーディネートをしたうえで一日の計画を立てている。 | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。 | 髭剃りや整容など、着こなしや身だしなみを整えて一日を始めている。外出する方は化粧をして頂く事もある。 | | |
| 40 | 15 | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。 | 食事の準備や、盛り付けなど、時には料理法をアドバイスしてもらって、みんなで食事を楽しめるよう工夫している。 | 献立は利用者の希望を取り入れ、食材は一緒に買い物に出掛けています。おやつ作りも一緒に行っています。茶碗や湯呑み、箸などは利用者一人ひとりが馴染みの物を使っています。行事食や外食も取り入れ食事が楽しめるようにしています。 | |

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 自己評価 | | 外部評価 | |
|------|------|--|--|--|-------------------|--|
| | | | 実施状況 | 実施状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 | |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。 | 食事の量については必ず摂取量を記録するほか、必要な方には水分量の記録をとって支障が出ないようにしている。 | | | |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。 | 食事後は全員が口腔ケアを実施している。 | | | |
| 43 | 16 | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。 | 排泄のパターンを把握して、トイレ誘導を行っている。 | 一人ひとりの排泄パターンを把握し、事前誘導を行いトイレでの排泄を行っています。排便コントロールのため、消化の良い食事を提供するように改善しています。失禁時も適切な誘導支援により紙パンツから布パンツに替わった利用者もいます。 | | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。 | 体操を通じて排泄を働きかけている。服薬による便秘においては医師と相談しながら緩下剤を使用している。 | | | |
| 45 | 17 | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しむように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている。 | 毎日最低3名の入浴を実施している。 | 週2～3回の入浴が基本ですが、希望に応じた入浴も可能です。浴室は広く、浴槽の3方向から支援することが出来、利用者は安心して入浴することが出来ます。同性支援を実施しています。お湯や浴室マットは利用者ごとに取替え衛生面に配慮しています。 | | |

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------|------|---|---|--|-------------------|
| | | | 実施状況 | 実施状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。 | 昼夜逆転にならないよう注意しながらお昼寝や、休息をしてもらっている。 | | |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。 | 薬剤師から薬についての勉強会を開いたり、医師や看護師からどんな薬が出ているのか確認をして与薬をしている。 | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。 | 散歩すれば必ず声をかけられる方がいらったり、町内会の役員をされていた方がおられるので、そうした方々の楽しみを引き続きできるように支援している。 | | |
| 49 | 18 | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。 | 町内会の方、入居者さんのご友人、ボランティアの方の協力を得て、外出ができるよう協力関係を築いている。 | 天気の良い日には近隣の公園へ散歩に出掛けています。また、外食にも出掛けています。日常の買い物外出には近隣のショッピングセンターや近くの商店に出掛けています。個人的な外出希望者には月に1度外出の日を設けて適宜対応するようにしています。 | |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。 | ある程度の金銭管理ができる方には、そのままお金を所持して頂いている。 | | |

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------|------|---|--|--|-------------------|
| | | | 実施状況 | 実施状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。 | 入居者さんご本人が電話をしたり、手紙を書いたりして関係を保つよう支援をしている。 | | |
| 52 | 19 | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。 | ちぎり絵や入居者様のぬりえ、その時々に行事の写真などを利用して装飾し、季節に合わせた空間づくりを目指している。 | リビングは庭に面し、日当たりが良く、明るく開放感があり、その一角には障子、襖で囲まれた和室もあります。また、廊下にはイスが置かれ、利用者は思い思いに過ごせます。オープンキッチンからは包丁や煮炊きの音、匂いが五感を刺激しています。 | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。 | 廊下や和室などを活用して、入居者さまの思いに寄り添った居場所を作っている | | |
| 54 | 20 | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。 | 本人の好きだったカレンダーや家で使用していた家具などを居室に置いて、本人が居心地良く過ごせるような居室づくりをしている。 | 利用者は、ダンスを始め馴染みのものや好みのものを持ち込んでいます。写真やカレンダー、趣味のものなどを飾り、本人らしく生活できるようにしています。設置されたクローゼットは、十分な収納スペースがあり、居室内は整理整頓が行き届いています。 | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。 | 食事のお手伝いや、ちょっとした作業に参加して頂くなど、安全に配慮して自立した生活が送れるよう努力している。 | | |

| | |
|-------|--------------|
| 事業所名 | グループホーム 陽春の里 |
| ユニット名 | ひだまり |

| V アウトカム項目 | | | |
|-----------|---|---|---|
| 56 | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25) | ○ | 1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない |
| 57 | 利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38) | ○ | 1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない |
| 58 | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38) | ○ | 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 59 | 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37) | ○ | 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 60 | 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49) | ○ | 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 61 | 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31) | ○ | 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 62 | 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28) | ○ | 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない |

| | | | |
|----|--|---|--|
| 63 | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19) | ○ | 1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない |
| 64 | 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19) | ○ | 1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない |
| 65 | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4) | ○ | 1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない |
| 66 | 職員は、生き生きと働いている。 (参考項目：11, 12) | ○ | 1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 67 | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。 | ○ | 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 68 | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。 | ○ | 1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない |

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|-------------------|------|--|--|------|-------------------|
| | | | 実施状況 | 実施状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | 1 | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。 | 入居者さまやご家族の声を聴き、その望むところを出来るだけ実現するよう努力したり、地域の行事に参加するなど、理念の実践につとめている。 | | |
| 2 | 2 | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。 | 町内会の班長役として1年過ごし、回覧板にホームからのお願いを掲載してもらい古タオルの提供を受けている。 | | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。 | 運営推進会議等を通じて、地域の方からの質問や意見に対応している。 | | |
| 4 | 3 | ○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。 | 地域の力を理解しながら、応援をいただくことが多く、それがサービス向上に役立っている。 | | |
| 5 | 4 | ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。 | 利用者さんのことでホームで解決ができない場合、実情を報告してアドバイスをもらっている。 | | |

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------|------|--|---|------|-------------------|
| | | | 実施状況 | 実施状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 6 | 5 | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。 | 身体拘束についてこの基準を再度確認して、介護にあたっている。入居者さんの中には、あたりかまわず扉を置いて出してしまう方がいるため、施錠管理に注意を払っている。 | | |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。 | スタッフは日常の介護の中から、虐待につながるものがないかどうかをお互いにチェックし合っている。 | | |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。 | 当ホームにおいては3名の方が成年後見人についてもらっており、日常生活において、その制度を学んでいる。 | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。 | 契約時の説明については、その都度必要な書類を提示し、確認してもらいながら2時間弱をかけて実施し、署名・捺印をいただいている。 | | |
| 10 | 6 | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。 | ご家族の要望等を頂くために、目安箱を設置している。また、イベントを通じてご家族の意見や質問等に応じている。 | | |

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|-----------------------------|------|---|--|------|-------------------|
| | | | 実施状況 | 実施状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 11 | 7 | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。 | 毎月のミーティングや朝の申し送り時に、建設的な意見を出してもらって運営に反映させている。 | | |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。 | 代表者は職員個々との話し合いの機会を設け、それぞれのスタッフの気持ちや要望などの把握に努めている。 | | |
| 13 | | ○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。 | 新規の職員に対して初任者研修を受けてもらうなど、スタッフの質の向上に努めている。また、様々な研修に参加させたり、役員として派遣させるなど力量の向上を図っている。 | | |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。 | 横浜市や神奈川県スタッフ研修会に役員としてスタッフを派遣しているほか、グループホーム間での交換研修や、実践者研修の受け入れを通じて同業者との交流の機会を図っている。 | | |
| II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。 | 入居に当たりインテークの段階から本人の要望ややりたい事など、可能な限り丹念にお話をさせて頂いている。 | | |

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------|------|---|---|------|-------------------|
| | | | 実施状況 | 実施状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。 | 家族がいらっしゃる場合は、必ずと言ってよいほど、精神的なサポートが必要あると感じている。ご家族の意見やしてあげたい事を把握するとともに、無理のない範囲で協力をして頂く事に努めている。 | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。 | 初期段階では、まずホームに慣れて頂く事が大事であり、ホームでのサービスが心身ともに納得頂けるよう心がけている。慣れてきた段階で、「たすけあい栄」などのようなサービスを取り入れている。 | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。 | 食事の配膳を手伝って貰ったり、軽い作業などをスタッフと一緒にしている。 | | |
| 19 | | ○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。 | 時間の許すご家族においては毎週のように来所して頂き、入居者さまの心のケアに参加して頂いている。 | | |
| 20 | 8 | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。 | 町内会の旅行や敬老会などのイベントに参加して頂いている。 | | |

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|-----------------------------------|------|--|---|------|-------------------|
| | | | 実施状況 | 実施状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。 | 入居者さんどうし、お互いに支えあったり、声を掛け合ったりして暮らしていただいています。 | | |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。 | 積極的に実施できていない。 | | |
| Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 23 | 9 | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。 | 外出したい人はそのように、買い物をしたい人は本人と一緒に出掛けるよう工夫している。 | | |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。 | ひとりひとりがどんな仕事や暮らしをしてきたか、ご家族に聞き入って把握している。 | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。 | 休みたい人や、外に出たい人、体操などをしたい人、それぞれの一日をどのように過ごすか、スタッフと情報を共有して一日一日対応している。 | | |

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 自己評価 | | 外部評価 | |
|------|------|---|--|------|-------------------|--|
| | | | 実施状況 | 実施状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 | |
| 26 | 10 | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。 | ご家族の意思やご本人の希望など、時々に応じたカンファレンスを行って、ケアプランに反映させている。 | | | |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。 | スタッフ会議において、入居者さまの変化に気づいたスタッフから意見をとりいれたり、ご家族の要望などを総合的に話し合い、ケアプランにとりいれている。 | | | |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。 | ご家族の支援・町内会の支援、ボランティアの支援を受けながら、サービスを充実させるよう努力している。 | | | |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。 | 町内会の方々・入居者さまのご友人などの協力を得て生活を楽しむよう支援して頂いている。 | | | |
| 30 | 11 | ○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。 | 月2回の往診をして頂いている。必要に応じて医師とご家族の話を持っていただいている。 | | | |

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------|------|---|--|------|-------------------|
| | | | 実施状況 | 実施状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 31 | | ○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。 | 健康面の変化について看護師に報告し、往診や通院の手続きなど適切に行っている。 | | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 病院が開く会議に参加したり、地域での異業種交流会などに出席している。また、入退院では、情報交換を出来るだけ密に行い、その後の生活に支障のないように連絡を取り合っている。 | | |
| 33 | 12 | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。 | ご家族とは入居の段階から看取りについて確認をしている。また終末期においては病院とホームとのケアの違いを十分に説明し、ご家族の判断に対応している。 | | |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。 | 今年は4～5回ほど救急搬送を行ったが、救急車の手配から病院への情報提供を確実にいき大きな混乱はみられなかった。 | | |
| 35 | 13 | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 | 年2回の避難訓練を実施するほか、町内会の災害訓練に参加して、顔の見える関係に努力している。 | | |

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|---------------------------------|------|--|---|------|-------------------|
| | | | 実施状況 | 実施状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 36 | 14 | ○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。 | 「年寄り笑うな行く道じゃもの」を念頭に入れ、人生の先輩に対する尊敬の念を持って対応するよう言葉かけに注意している。 | | |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。 | ADLが低く、意志の伝達が難しい入居者さんにおいても、居室で休むか、リビングで過ごすか等、声かけによってご本人に決めて頂いている。 | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。 | その日その日の入居者さんの要望を聞いて、全体的にコーディネートをしたうえで一日の計画を立てている。 | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。 | 髭剃りや整容など、着こなしや身だしなみを整えて一日を始めている。外出する方は化粧をして頂く事もある。 | | |
| 40 | 15 | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。 | 食事の準備や、盛り付けなど、時には料理法をアドバイスしてもらって、みんなで食事を楽しめるよう工夫している。 | | |

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------|------|--|--|------|-------------------|
| | | | 実施状況 | 実施状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。 | 食事の量については必ず摂取量を記録するほか、必要な方には水分量の記録をとって支障が出ないようにしている。 | | |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。 | 食事後は全員が口腔ケアを実施している。 | | |
| 43 | 16 | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。 | 排泄のパターンを把握して、トイレ誘導を行っている。 | | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。 | 体操を通じて排泄を働きかけている。服薬による便秘においては医師と相談しながら緩下剤を使用している。 | | |
| 45 | 17 | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しむように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている。 | 毎日最低3名の入浴を実施している。 | | |

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------|------|---|---|------|-------------------|
| | | | 実施状況 | 実施状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。 | 昼夜逆転にならないよう注意しながらお昼寝や、休息をしてもらっている。 | | |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。 | 薬剤師から薬についての勉強会を開いたり、医師や看護師からどんな薬が出ているのか確認をして与薬をしている。 | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。 | 散歩すれば必ず声をかけられる方がいらったり、町内会の役員をされていた方がおられるので、そうした方々の楽しみを引き続きできるように支援している。 | | |
| 49 | 18 | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。 | 町内会の方、入居者さんのご友人、ボランティアの方の協力を得て、外出ができるよう協力関係を築いている。 | | |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。 | ある程度の金銭管理ができる方には、そのままお金を所持して頂いている。 | | |

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------|------|---|--|------|-------------------|
| | | | 実施状況 | 実施状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。 | 入居者さんご本人が電話をしたり、手紙を書いたりして関係を保つよう支援をしている。 | | |
| 52 | 19 | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。 | ちぎり絵や入居者様のぬりえ、その時々に行事の写真などを利用して装飾し、季節に合わせた空間づくりを目指している。 | | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。 | 廊下や和室などを活用して、入居者さまの思いに寄り添った居場所を作っている | | |
| 54 | 20 | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。 | 本人の好きだったカレンダーや家で使用していた家具などを居室にいれて、本人が居心地良く過ごせるような居室づくりをしている。 | | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。 | 食事のお手伝いや、ちょっとした作業に参加して頂くなど、安全に配慮して自立した生活が送れるよう努力している。 | | |

平成27年度

目標達成計画

事業所名 グループホーム陽春の里

作成日： 平成 28年 4月 20日

| 優先順位 | 項目番号 | 現状における問題点、課題 | 目標 | 目標達成に向けた具体的な取り組み内容 | 目標達成に要する期間 |
|------|------|---|---|---|------------|
| 1 | 3 | 運営推進会議の議事録をはじめ、各種の「記録」はそれぞれわかりやすくファイリングし、整理されておくことも期待されます | 運営推進会議等の記録について、分かりやすくファイリングし、いつでも簡単に取り出せるよう管理する。 | 過去の書類整理を実施して、新たにファイリングをやり直すとともに、今後の活動に参考となるような記録として管理する | 12ヶ月 |
| 2 | 13 | 事業所の避難訓練実施記録や地域の防災訓練参加記録などの「記録」を分かりやすく整備しておかれることが期待されます。 | 避難誘導の仕方や消防設備のしくみについて、しっかりと研修し、スタッフの理解を深めるとともに、記録等についてもわかりやすく整理し、いつでもすぐに取り出せるよう管理する。 | 消防関係者や管理会社等と連携しながら訓練等を行い、その記録を写真等を使った記録として管理する。 | 12ヶ月 |
| 3 | | | | | ヶ月 |
| 4 | | | | | ヶ月 |
| 5 | | | | | ヶ月 |